



嬰女鳴館遺草

三

心本

9
3521
3

學大田稻早
館書圖
庫文田內名托寄
號00一第書托寄
號6第
冊3第



3521
3



嚶鳴館遺草卷第三

色里やう

○およそ多木と極をたけりよ二木三葉より成長
たて用よたけ木葉とるれまてうん始中終の
三股あり多木効葉あり木よ堅木あり然も
そのくち苗葉苗木の村り川草もさるるありよ
しく直ももさるち曲ももさるたけへ一是を始也
既よ草とれり木とる葉の効き竹葉のさる木を
年月はほよもてりて副本をたて繩と海にて



大正七年九月
内田 糸子氏 贈

三十一

カ邊
2933
6-3

山本六海之内

始へうあんとすれども草木くさりのまゝさす
是中之花と死実ちり枝と葉養甲とそれく
の用おたつれども形りおふせたるん終えまらけ
始中終の表ひよらとほくしきことと草木苗草
の時よりらなつけて育れん苦勞とさく良草
良木の用と成すこととさく一苗木の自由は形れ
んとして無理曲撓して心の悔いよせんとして
いう形ら勁草堅木も或は枯或はいつくしてたひ
を月お経てもいさあひおきて枝用おゆへん
草木はともあらず禽獸も又ともを駒兒犢牛犬子

猶兒の音まじ始中終へあるものなよく獸成
幼ふもの始中終は地ひ無理となくさく次とて
それくの生れ途一むへん新物の異貴さる
ものとしきと始中終のあることと人聊も貴れ
と形一故よ古の事人お悔のるる法と先て
人情と途ゆ一めゆふ尊卑貴賤品とく事とさ
教といふ道成すてく性命とたつしきささる
さくそまの法よ始中終といふ事て天の姓よ
洋ひとくぬやうよ定めおきひとくも
○人の始中終は幼少な始と一強壯な中と一

を養ひ給ふ事すこの三時よはし戒を施す法
一同形すといふも先おほふ事と終る重ん
の養ひ乳を母くして賦を飯とくあはれて養ふ
孩思ふ人元後とて上下急こけりたるも其
乳とて上下急これして元後とこれいして頭
と中て額あはるものよりたるもの思ふ事
をす少壯の三の時をいして其
つぎいふ形ありしるをうよあはるこ
人の養物の具といふも海に具あはるや死
形をいふ本苗子の時より其身を給はれて

善く善くはむうをうあはる事いあはるこ
大りの養也無理よまけたる先ねも自然と
成長とてそれくの徳と然るをいむる
こいふぬ所もあはる人のあはる事す
胎をといひて懐妊のりより祝徳を
はるまをせし生る子の吉祥とをいむと
海して生きたる人のこいふ事及はるこ
あはる人の先やつはあはる人の善悪邪正な
振ふあはるして幼弱尪身の正をいむる
あはる事習懐の自然のやと孔子も作はれて

人々の言を聞きしより其度の昇賤をわきまを
まてしその習懐するを又恥ぢむこと人と教るの
極意なり

○吾位を殊の人女子に僅よ乳を店と放まらるり
よりうらうら父母兄長の威を恐れおもん他人
の戒と懐中してしまへ是非の在理の辨へてね
とも何となく善悪換投するものなりとて我
知る是素賤の人の人と畏敬するよ習ひ懐たる
もの之然らざるもの人女子に胎内よりひひ
うるまのそれ出する一なるを懐おひてこれる業

成りけて僅よ人と見知りぬより人々畏敬の
ふをいひて死およ伺作する福の者い息ぬひそあ
容なちりて先を産の様態とせむとて中し中
取扱ひなることしたるひ父母兄長の戒と
う毒ぬふりて心とありとていとも稀たよはあ
形うこととてしを余人者よ后妾の女抱はる手
そたちらぬふこと形をい幸よ善良の質と交わ
とそれの中よとも賢明の事なりとありたよふも
あまもも一不幸として驕傲の事家な交
わんと遂より暗悪毒疾の事なりと知りぬる古今

てんうちのけぬものなり師傳の礼なるや
かゝる威と嚴とあはしむるふしん先志
の命書とさうし愛敬なめはくさるふし
始るころりつらり忠實の士とくもま
祈の命を命と遇さる祈の忠實なれ
世子の畏敬なれとすふきいさる

○師傳一人忠良なれとくもを智の長和つる
ぬされし書長のるきすくことさる初き侍ら
よし誰彼りつるあらふしこれさるや
よかすれと毎別とあらふきいさる

よし人宜しとすくことさる人
とぬるよしと又一人かきんをさる
ふれすすまふひわうとくも自己
よしとひわうとくもは後志とさる
これ女の取きとあり師傳一人つら
あしとくも一人は元禁とのた
多勢よはまたとくもことさる
且又師傳の世子の書敬とさる人
村中とくも同作とさる人退て
師傳のあきりしとすふきいさる

以て習性も熟し一かふとれり又と習の片
一と一れも師傅の教を怪し悔てまをまねて
あまらう一日あたしやう十日くゑすのたそ
あま習性も敗るゝまのあまひより師傅の
ふあしと習の片は忠良なえふこと又
大事なること古今とも中以上のふり世に
のふり師傅を換ふゝんんつぎいゝもを習
忠良なえふひのふり及のすたゝく病を治せん
として一葉を施し十毒とて海をうらや一葉附
姜楮の良薬とていゝも毒は合して用る時を

毒の終りんちり形へて善のま自のうく悪の
ま自のりし十人の良は一人不良の良は海
造り一人の毒海りりすゝあちりむつをく退
く海し海して十人よ三人いゝも不良の良はり
流るゝまの毒とて一人の忠良のふりてゝもあまきり
ぬし古よ今も然ちり

○賈誼のこゝろは天下の命は懸於太子とて一人
必死とていゝもを政を日出度とていゝ時人只
一人の忠良なれたぬとて出らるゝとていゝと
まゝのふりて正善は海しまゝとていゝ師傅一人の

教よかりるるを教し師傳の位より卒死位あり
師傳の徳仁厚長きものを才として師傳の
才の博多通するを才として才人仁厚され
るも博通なるれは曉諭の及ゆきつてあるす
其人博通されも仁厚なるは是れ忠篤の
誠うすしとのあ根と善くうくと成全の師傳
とす人一律に學徳全體の善なる事ありと
ありすま何人たり抑れなく心盡して
人の賢なるをます人の善なるを好み
知るの美行を稱するごとく好む古今の経籍よ

うきとるを其語とて人として第一教修して
一言一動ありとも目には人々を以て是と
今日の利よたてむとそ人のあふんさるる
師傳の位を授けりも害する事へ利は費明
る取也とて是は似て非なる人とは似ます
是と善人の目よりよく毎毎の目よす
て世子のまじらざるもゆき死をもへす
尤恐るべきこと此の師傳の官も任
する人の法もあて事同なるべきことあり
○六經より以下諸書より人の戒と述べたること

備らばる所なり但一世子ならざるの例とす
りてはさきとくもきん國語の楚語と申叔時と
りて人世子の教うて成説たること念次之漢書
の賈誼の傳の治安の策の中より親切に論たり
この二通を瓜より續てて一人一まる世子と
して行ふるに非ず孝悌の徳といはるるべき
こと也其貴の上より人親子れ同じ跡をたつもの
よし其徳のくちなり二と四中より親親を
合をたつものされし親愛の情も自然と下への
親うよるに由るが如きもの之世をよとくらぬて

とたうよは清親子の間のお互よさるうくあり
なふをうみとらぬと申すひありてこれ孝悌
の徳と長するものより下へのよすてたふ成人
といふ妻子女も持たしよて是れ父母の孫
なりよとらう一時の爲より親愛のふとさく
ちりて幼年よて起くよとて人子も孝の者
といふるなりよははひよぬるぬもの也やして
貴人の上より人教ふよははひ互の礼を
おこらうるものちる人幼年の時より
ちく育ちぬ人けりて礼義とらりあちりて

忠愛の情人のつらさうと強さうとやうなるものも
も多うあること次より驕傲の心吝嗇の氣は
長しうぬるうよ人を怒しうふらとさふさふ
しききききき孔子も周公の才ききありとも
強さうと吝嗇の心強さうと強さうと強さうと強
なれし驕傲の氣もさうさうのりして人とある
さうさうしうさうしうと目下よはさうさう
さうさうさうさうと吝嗇の心財宝とむらさうと
さうさうとさうさうとさうさうの心秋子さうさ
疎濶さうさう生し驕傲の心あたりにさうさう

さうさうのさうさう生し吝嗇の心義理の
さうさうと強さうと強さうと強さうと強さうと
習性さうさうさうさう

○孝愛の情と厚さうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
すしし驕傲の心とさうとさうとさうとさうとさうと
おさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
吝嗇の心とさうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

ちりぬ人をもさし一踏傲とてまぬものもさし爽利
 なよりさし吝嗇なまけしきまぬ人もはし人ら
 のちり死する人家必繁榮の元人らのちり死する
 の家必衰微のちり死するれもむちり死するも
 目先の豊とてさし富もさるんと持せられん
 儉約とてあつてさしむものもあたくしあつ
 てもさし富もさるんと持せられん
 仁徳の心を失ひ
 ぬふものちり死する人清徳のちり死するも
 ねえれぬ人のちり死するも若せ後よ持る

ちり死するものもさし富もさるんと持せられん
 身後子とてさし富もさるんと持せられん
 の自己の身と節儉して下の恵とあつてさし
 ひり死する書籍もさし富もさるんと持せられん
 ちり死するもさし富もさるんと持せられん
 素もさるんと持せられん富もさるんと持せられん
 ちり死するもさし富もさるんと持せられん
 雅伎の宅へ入り富もさるんと持せられん
 ちり死するもさし富もさるんと持せられん
 ちり死するもさし富もさるんと持せられん

入用と積つてをゆへにせりやうあり申付れりた
 役人とも考へて志しき氣風となすべし
 下並は法をてせ金八ありし出来の坐と書つた
 差出せりと大徳後法にり見れりしやう
 各用と致すへり八ありし金子とて人足煙一人
 と扶助するところとて普法とをゆへにれりやう
 然るに尾の傍居様の是れ大坂の清城失火よつき
 江戸へ早送の役志とては注をやらせれり
 人の役志と目通りをてよひに孫の側よ小粒
 金を紙よとりおきてぬのよすひて定めて



申付の役人たり申付れり是れ自かろるそ
 とてそとの袖へ自所へり役の男平伏
 志し退くと致しとて申すれり
 又申す一すひたの袖へり申すれり
 目視よ四すひに終りゆ申すれり
 とけりし江戸への注進を申すれり
 大徳後系府の是れ規程なる

上をとも有るゆへに又不斷を實よ並付の長持
 ひよりあり申す申す申す申す申す申す申す
 須まの封印も申す申す申す申す申す申す申す

對人之同志

臣下の口身を以て人何よりまの忠不忠の境と
爲るとは毎々如く度と知らず其の境とく
以合点するの境より一兩首は保切の境より
致感らぬ忠長の御代の時よはたし事したれそ
つ概より新中より一なる併一併の心持と
先必ゆるし度事しよふ事の格或は祖父代へ傳へ
受くるものとの境より其の境と戴くた
る存ひてすよ自己つ方の利害とせよ
忠敬の境と爲いさうも毎々存ひて人の於

よて人の口身をもその境より是非善惡
のみ法よふ及御も忠不忠といふは毎々
たる人よりそ忠不忠の論より及いさ
人臣の境より其の境より其の境より
賢愚もよふ人の境より忠不忠といふは
人の口身をも万人同情よむる忠不忠の
境と爲いさうも毎々存ひて人の境より
すことなるもいさうも忠不忠といふは
ふ知れぬは境より忠不忠といふは
忠不忠といふは境より忠不忠といふは

心身の親切より面より心より身もあやまら
 所つら南を切より衣靴して人しすもあやまら
 ちるさいしとちんをさしよよし人さるひては下あ
 數十人数百人教子人等の大身小身おはひは
 多少の有しりいれいれり下おさるひて
 一同よるの政よりと手結ひ家玉の安危とお後
 するものあては是と人のつ身おさるひては
 元首とちんえそ人政よとちんを股膝耳目と
 ちんを足と身と目のよりちん股膝耳目の
 四とあけて鼻口唇舌凡牙百骸はその中一牙

らりの目りち身の使身つらと是れあゆむに
 らひ鼻のき唇舌凡牙百骸下左右は動き
 働きし一の主なる政よはあつらぬ一人の
 系よ下群臣の存亡とすつらよとちんを
 四支百骸の政よはひ動きしと満よあやまら
 海やちるちるものちんをつらましとすれは
 目らちちらつら身のちんをさるひては
 合して身とちんをさるひては
 よ右より翼の政よは海に忠良の臣下よ
 ちるちん代りたつら一身達志をさるひては

るべし是等しく身つらの利害をすすむ極公忠
あるらぬかして人おさるはるけさてみ人我互に
我の勝らとさうとありと忠勤の仕務とらぬたの
忠お似て不忠の甚きいみして人是別まいつじ
役とさうらぬて是のいゝもとさうていゝも
手の役とさうとさうとありありとありと役とさ
うらぬて手の足ぬ時人踏る踏むとさうたの
あるとさうとさうとありとありとありとありと
すちやとさうていつある所へ一身の不自由におら
て用いたぬ手足とさうとありとありとありとあり

か爲しとる人をも忠不令の片とせしめんと
いゝと金持りの金銀とさうとさうとありとありと
なりと徳拂役徳後役の拂ひ残のちと後とこの
滞らぬとさうとありとありとありとありとありと
ても不忠とさうとさうとありとありとありとありと
毎一かりと金持りのも不忠とさうとありとありとありと
とも出すると徳拂役も不忠なりとありとありとありと
ぶとて拂ふと作り手りの善請の出来とさう
成らぬとさうと金持りのちと多きぬとさうとありとありと
手際とさうとありとありとありとありとありとありとありと

此先を徳代友の百姓へあたりの民よりくる所
成るものごとくは存りて皆敵の清養をせうせうぬ
為らざるお互よとひ合て我ひくち忠臣と人な
るす人も我も不忠ものよ形らぬやうみくころ
うくる是と公忠忠良の臣と稱して家臣の至宝
と致しんるのよんころ一官の功と云ふと存り時
他役所の迷惑いふ事とせぬぬる所よつらの功
ころと云ふとも多分の功いふころと換するよ
きん忠とつらものよあす一人の忠と對しなり
てん莫大の不忠とてん家國の上と致し四面上下

めくくくんる死より出らるのよと古今ともよ
うやうの類成毒邪の臣と名つ希やん不忠の
目あの小功と云す家臣永久の縁成るころと
自己一人の子孫とかせうす万人の民と成るす
希と云ひますを忠子の天忠と云ふん戦場子執
士人といふと子孫と云くくんるくくして人敵よ
後つきる理なきくくそれすころと己起りの子孫
成るもきくくを死ら時へ他組して十人討死
すころと我組して三人功成すれくくころと存
り時へ千騎をも百騎同様して軍の負の大おん人

の秘傳とおぬり常く人ととてぬ跡をみる羽軍
よとても手詰の場よと人肉執見才の如く助太刀
介折といひてさしこも味方の獲利と人形をされ
大おき人への奉ふ是よさしる患のなきくはよ
軍令よぬけり事の功名とがく禁りてや一
の越度よや付ゆりみ下一人の子扱とむはなり
味方の勝敗とく可と見ぬ不患の多し和漢古今一
よ年を死おきとて人といひていひていひていひて
執政子文とやゆ人三度まで執政よなりゆくと
そのたびくよはれのも嬉いと存る顔色とさく又

と度まで執政とや一放きゆとてさしめしむ
と存る顔色とさく自らの勅の内お宜一りり
とてとあ一りりいとも政役のふぬよさるさし
と海うよや送つてはさしめすゆりさくこれ
自身の利不利なつすれてその家玉のふむは
ぬきさく大切よ存るんぬよ孔子も忠也と稱
かひりすして人の交り人礼讓とやいとぬ一
礼讓とんさ死あつていとさしめしむ我も死よ海
らす人のよ死とたつる事よん人のよ死と死よ
まらんとたぬいりて人ぬすさるるに死ぬい

為らざる人にしてすも所めたるなき人なりと
名ひ存するに及ばず物ごとむにありて由り
りて家必安富のお蔭も成就致すことなきを
お志のたふぬる患のつたひに礼讓の心あり
おらりゆきとて家國の榮いこれより生る
ぬよ孔子もよく礼讓を以て必死をたれり
あしんとん茲作れむ一舟の執政爰伸と人
礼義廢れ四成四維とありけり必死活るひ
經とれりゆきとて四のひに經ありて時人國則
滅亡すとす礼の不踰節とす人々身の

不のく成さるる上とありてさのく人のさ
み不義の不自進とす上への引くをなす
自己より立身なたくむやする所ありて
みん慮い不敬悪とす我ありてありて
かくして今日なるるをさるるはを死
あるにありて恥い不送程とすたといふ
よるれとていふとありていふとありて
希きけり所ありて人の人のありて
の心人強して是をさるるありて人
人の下たるものけり人の強よとありて

不中りて自然と忠良の臣と成りて家臣の爲
 玉皇の人の成りしもの群臣を以て官職
 成りしちて君の必政と成りて人たるて
 中きは樂くかの鐘太鼓笙ひちり死を以て
 道具成持よりて一曲成りてしるるるる
 五音六律調子持ひて何の中らも死んぬ
 のおは賢臣の揃ひたるよしすれらる聖人の
 清代を以ていし及べきを以てよく成り
 上手同志の由合たる時人すしししし
 の有るくくも笙ひひちり死と成すけり

太鼓成あすけて相互よ人の同心ぬるるよ
 一曲と成りしししししししししししし
 死るのよししししししししししししし
 時人笙ひ笙笛ひ笙斗と我し吹くししし
 太鼓の我しししししししししししし
 きたく太鼓の名人となれしししししし
 めりかりしししししししししししし
 としししししししししししししししし
 身とぬる死後とくして一曲の終るを
 ぬしししししししししししししししし

為徳者若人とせしむるは以て為徳の本義と
 すへー善射盛舟との杖藝の万人に絶絶するを
 いふより然れをさるる人のことより不祥小人自己一人の
 欲と違へて在戎夏へ入と極むにらる死よんて
 終り身死之すよまわり新稼すといふこと
 智恵少学よもさるる昇尊煩勞人よこされる
 こと死よんこれともさるる人より吉祥善人自己
 一人の安逸を言れて在戎夏へ入を極むの仁ら
 切らるとして終りまると下の人の心を感すよん
 安上利其の政仁義徳めと當ふよ義り利は方

智恵用ふる小敗ること古今の經験然たり日月
 星辰の善古の天地を照臨し善夏秋の善古
 の氣節が運席すれた自以方とさす自以功と
 さす即ち地の大仁とさして地の大讓とさるる
 有よけ仁讓よけつとる人と有徳者よと稱し此
 仁讓よせいさるる人と不祥小人といふ人よ上よ
 位すれん愚恵下よ降る有よ善民承順す小人よ
 上位すれん貪虐よ上恣ら有よ善民怒憤す
 治るの如くよ能く情礼の怒憤よ生す是れ以て
 有徳者よとさるる當りて顯位貴徳よす名物と

孝道のつとことしてよ死錫と多く積立て一由
 の性命と行きて飯と人たき出つきことよ死錫
 不積立てる事政の根えられん孝道の師長はゆん
 ことこのおぼめ夫切の徹分り申たおぼことす
 志うしちうし元より言ぬ質徳一由の仰をす
 人よもあしすそ権自性一然事とも師長の先
 聖の清側を次よしそ云い夫子の心こと三すめ
 三月一月一次講堂よ洋系一師長よ敬侍して
 恭遜の礼と崇一女子の如と勵す一一人は
 うそくし孝道の體面とあすまたしんあ

師長 二個條

○師長の任り人よ信さるるよあり人よ信さるる
 ことありの樂處あるにありことありの樂處ある
 ことありの何れをもおれこと成退為さす人の信
 不信とこのす勸めこと文とておこたす人
 の任り申より生すことと性おれんことこ
 事一と自身よりゆる一と出一企て及ひ備して
 然の修めとすし人古人弦章の戒り美めとする
 したしす師長のま何自強章と帯一劉宗
 利純其のまうよ元章とておの一一是れよ備ふ

る人入と用ふる法よし人と交る法よあす求也
退故進之由也若人故退之とせしむる一とて
仲尼の人とせしむる一容子とせしむる一
流より馬の牙徳とひく弱き言の徳と入きて
方不才をりともよすむる言よふとて言ひ
しりり能と交へ不能と務む書生の成敗と
己の任りて孝悌忠信仁義禮讓の徳と智徳
をりり一館の父母とせりて善と成悪と掩ひ
厚は厚とり内秘て教化の及と補助するなりと
飲食のまも油ひきりぬしきと師長の極と

形るへ一師長の教あるときもよとて人の教訓
の法と教ふりて子才よ急務と生てりあはる
る言よ死あひりふとて面と四角なり智とてり
敬朴とてり志とてりてあやまちあるの美讓とて
と死きふとると教ふする人いふ言よ思とて
交諭の仕法い学記よ詳悉すれとまりけを篇と
講明すへ一

○学記曰小雅肆之官其始とる今般建学の言とて

よ出入とてしき終りつちある人よあはる

の子り心家也

ともけり群僚の上は位きてつふの安危を任す

のふへ大目付

徳物

○ともけり命とよまけ令と下は施すき昇貴職
職學子若者いあれをもよは下は下はけろむ人
よあはれるるるるのめ来とさひとて終る
のん特と覚悟をり他日の用よ備ふること完物
才一の教誨とす

生負 一個條

○生負の命とよけて學徒の才子よえつる事これ
ん五箇中別の才公とてとる一書典は通

徳藝よ形こひ体日よこの用とさるる公ひて今日
の業とすその勅こひ師長の教よとていふ事
おいらる一それと別よるねと論するん及んす

いんあるふよ學徒たそこれ一時作りてあこたる
おれていふるなり

嚶鳴館遺草卷第三

